

教職課程センターだより 第24号

発行日 2020年11月26日

巻頭言 「わからないこと」に向き合う意味

教職課程センター運営委員 小林 洋司

いわゆるコロナ禍のさまざまなことは、これまで誰も経験したことがない数多のことを引き起こし、今なお私たちに様々な課題への対応を強いている。教育現場も例外ではなく、学校は学びのあり方の問い直しを迫られているとあってよいと思う。山積する課題のなかでとりわけやっかいなうえに重要なのは、これまで当たり前とされてきた「人と会うこと」が制限されている、ということではないだろうか。人との関係、人との繋がりや意味が、責任やリスクということばとの関係で改めて問われている。こうした事態に直面している私たちは、この状況、そして「人と会うこと」のこれからについて何をどのように考えていったらよいであろうか。

話は少し変わるが、わたしは、ハンセン病という感染症により、苛烈な差別・偏見を受けてきた人々のことについて研究してきた。なぜ、ハンセン病という病を患った人々は、偏見の眼差しを受けたのか、当時に生きる人々はなぜ、冷静に自らの行動を問い直せなかったのか。どうすれば、人々が同じ過ちを繰り返さないのか。私なりにこれらの問いについて真剣に向き合い、考えたことを言葉にしてはきたが、正直いってわからなくなった。それはハンセン病をめぐる上記のような問いに「人とのつながり」や「人との出会いの中での学び」から突破口を見出してきたからである。この半年足らずを経て、わたしはわからないことが増えてしまった。もともと学ぼうとすればするほど、わからないことは増える。それは学べば学ぶほど、見えること、気がつくことが増えるためより多くの課題に気づいていくからである。だが、この半年の事態を目の当たりにし、人間が「わからないこと」をこれほどまでに恐れ、適切な判断や行動を鈍らせるのだと痛感した。このことが、私の分かっていた「つもり」だったところを揺さぶり、結果、わからないことが増えてしまった。今みなさんのなかに、考えることが多すぎて思考停止をしている人はいないだろうか。

私は、「わからないことを考えることをやめないこと」が大切ではないかと思っている。わからないことを考えるときに、考える力や、今の自分の見方に気がつくことがある。教員になることとは、そうした営みを直接的、間接的に支える人になることである。

みなさんをお願いしたいこと、期待していることは、ぜひ、「わからないこと」を悲観せず、「わからないこと」から逃げないでいただきたい、ということである。その場にとどまり事態に向き合い、考えて欲しい。その「わからないことと向き合う姿勢」が、人との関係、人との繋がりや意味を考える時には欠かせない。情報を鵜呑みにし、無批判に対応策を実践するのではなく、一方で誰かが立てた対応策に批判ばかりぶつけて、自分では何も考えようとしなないということでもない。この状況と対峙する方法を自分の頭で考えてから実践する。そうした営みが教職を志す人には、「特に」大切なのではないかと思っている。



3年生 ステップアップ講座に参加して

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修3年 相原柚子

私は小学校の先生になろうと決意したものの教員採用試験についてあまり理解しておらず、時間が経てば分かるだろうと軽い気持ちで過ごしていました。そのようなときステップアップ講座が開催されることを知り、絶好の機会だと思い参加したことがきっかけです。

教員採用試験は、実技の内容が全国で違いがあることは分かっていたのですが、筆記試験の内容までも違いがあるとは分かっていませんでした。採用試験の全国的な傾向や対策を教えてもらうことができたので、試験勉強を始めるにあたり参加してよかったと思います。さらに、その内容の説明のなかで具体的な事例として扱った問題は、私が受けようと思っている県の問題だったため、より傾向と対策を把握することが試験勉強にとって大切であり、重要であると自分事とすることができました。

ステップアップ講座に参加して、試験勉強は早めに取り組む必要があると実感したのも良かったところのひとつです。今まで先生方からのお話で早めに取り組んでおくのが大切だということは頭に入っていましたが、何がどう大変で早めにやっておく必要があるのかまでは、ピンときませんでした。ステップアップ講座で「この科目はこの傾向があるからこのように対策していく必要がある」と説明され、自分が思っていた以上にやるが多いため、早めに理解しておく必要があると実感することができました。また、私は勉強しなければいけないことは分かっていたても、何から手を付けていけばいいのか分かっていなかったのので、一歩進むことのできた機会でした。今から勉強して間に合うだろうか不安に思ったり焦ったりしていることも、良い意味で捉えています。

採用試験まで一年を切りました。ステップアップ講座を通して得た知識を使いながら、夢の小学校の先生になるために試験勉強を頑張っていきたいと思います。





4年生 二次試験直前対策講座参加記

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修4年 杉本佳史

私が、この二次試験直前対策講座を受けることに最初は戸惑いがあった。なぜなら、申請期間が一次試験の合格発表の前であったことや、コロナ拡大への不安、そして個人での面接練習や、zoomを活用して面接練習を続けており、面接の際に話すべき内容のほとんどが、すでに頭に入っていたからだ。しかし、先生から様々な先生の話聞いた方がいいという薦めもあり受けてみることにした。ここでは、講座に参加して良かったと感じた点を書いてみたいと思う。

まず、この講座の良かったところは、対面で練習ができたことだ。私は、一次試験で入室と退室の際に頭が真っ白になり大きな失敗をしてしまった。礼をしないで入室。面接が終わったときも座ったまま礼をしてしまうというミスをしてしまった。なかでも、入室で失敗したことによって、自信をもってのぞんだ面接であったにもかかわらず、緊張してしまい、内容をほとんど覚えてないほど混乱してしまった。

私は、コロナの影響により対面での面接練習ができなかったこともあり、入退室の練習をほとんどしてこなかった。二次試験直前対策講座では、実際の本番に近い状況で入室から面接、退室までを行うことが出来た。また、一連の流れが終わった後にノックは何回が良いのか。礼のタイミングはいつなのかなど、面接以外でも質問をすることができた。そのため、二次試験では入室から退室まで落ち着いて行うことができた。

二つ目は、自分のモチベーションが高まることだ。この講座は、一生懸命努力し、一次試験を勝ち抜いた人や、今回は残念ながら落ちてしまったが、来年こそはとすでに気持ちを切り替えて、努力しようとする本気で教員になりたいと思っている人たちが参加している。そういった人たちと、同じ教室で切磋琢磨することにより、自分も頑張ろうという気持ちにさせてくれた。

この講座に参加することは、とても大事なことではある。しかし、合格するためにはこれだけでは全く足りない。むしろ、この後が大切になってくる。この講座で学んだことを家に帰って二次試験に生かさなければならない。その際に、講座を通して高まったモチベーションや、本気で教員を目指す友人と一緒に勉強をする約束ができることで合格が近づくと感じた。

三つ目は、的確なアドバイスがもらえることだ。いくら堂々と話しても内容が不適切であれば意味がないし、話し方の癖や姿勢など自分では気がつかないことがたくさんある。様々な面で指摘してもらえらることで自分が言っていることは間違っていないと再確認することができるし修正もできる。

ここでは書かないが他にもたくさんメリットはある。私自身はこの講座が終わってからは、毎日友人と3～4時間の練習をしてきた。これだけ頑張ることができたのも、ここでモチベーションが高まったことが大きな要因である。試験が近くなればなるほど緊張し不安にもなる。そういったときの助けになるのも一緒に頑張ってきた仲間や先生である。私はこの講座で4人とグループを組み毎日欠かさずに練習したことで、その4人全員が現役合格を果たした。これから受験をされる皆さんにもこの講座を受けてモチベーションを高め、本気で合格したいと思っている仲間を見つけ励まし合いながら頑張してほしい。



教員採用試験二次直前対策講座に参加して

スポーツ科学部 スポーツ科学科4年 北村雄

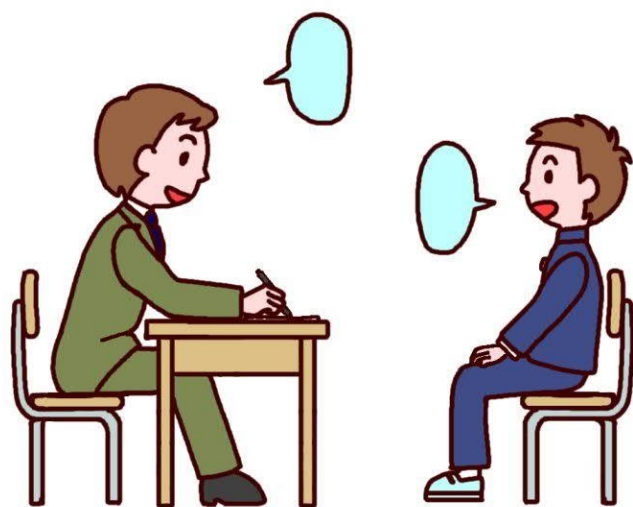
二次直前対策講座では、前半面接練習をし、後半場面指導をしていただきました。はじめに、二次試験で押さえるべきポイントを教えていただきました。その後、3~4人の予めつくられていたグループで担当の先生と練習をすることになりました。

面接練習では、先生からたくさんの質問をしていただき、考えていなかったような質問もありました。しかし、適切なアドバイスや良かった点などを丁寧に指導していただき、面接に対する自信をつけることができました。面接試験さながらの雰囲気で行えるため、本番のような緊張感の中、面接をするという場慣れという意味でも必ず参加した方が良いと思います。一次試験の面接と違い、二次試験の面接は深掘りをする質問があるため、先生にその練習をしていただける機会にもなります。自分の弱点や考えが甘いところなどが浮かび上がってきました。

場面指導の時には、グループの仲間の意見を聞きながらも、自分だったらどうするかを考える本番と同じ状況でした。私は、それまで場面指導に関してあまり練習してきませんでしたが、1つの質問ごとに、一人一人の回答へのご指摘やアドバイスを頂き、場面指導で考えなければならないポイントを学ぶことができました。周りの人の意見をうかがうこともでき、一緒に練習している中で勉強になることが多くありました。

実際に先生方に面接練習をしていただける機会を逃すのは非常にもったいないと思います。二次試験では一次試験と聞かれることが変わってきます。私は何度も先生方に面接練習をお願いし、不安を自信に変えて本番に臨むことができました。実際に先生との緊張感の中の練習があったからこそ、本番練習の成果を発揮することができました。二次直前対策講座は自分の自信をつけたり、新たな課題が見つかるチャンスです。

最後には、先生方からエールの言葉を頂き、励みになりました。私はこれから特別支援学校の講師として取り組んでいきますが、次回の教員採用試験・面接試験や来年度の取り組みに活かしていきたいと思います。参加して本当に良かったと思います。ありがとうございました。





合格体験記(大分県・小学校)



子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修4年 真砂加奈

①受験対策・勉強法について

【1次試験】

受験勉強は3年生の11月頃からなんとなく始めた。本当になんとか始めたため、無茶な勉強方法を計画していた。暗記することはたくさんあるため、むやみやたらに勉強をし始めるのはおすすめしない。だが、そのとりあえずやってみようと思った時期があったから自分のじっくりくる勉強方法を少しずつ見つけられたのかもしれない。本気で勉強を始めたのは、2月の終わりごろである。勉強方法は、教職教養と学習指導要領の暗記に力を入れ、穴埋めのテキストを使い、答えをノートに書き込むことを繰り返していた。問題集を使い始めたのは5月頃である。自治体の問題の出方を過去問から見て、ひたすら覚えるだけである。2月頃から始まった宮園先生の授業がとてもわかりやすく・面白かったためやる気に繋がり、やっと勉強法や大事な箇所が分かった。1次試験のモチベーション維持はズーム勉強会である。一人でやるとだらけて、朝起きられずなんとなく一日を過ごしていたが、友達と朝9時からお昼まで→昼食後から夜ご飯前までなど時間を決めて勉強していた。ズーム勉強会の良いところは、直接会うと話が盛り上がりすぎてしまうけど、画面越しだと少しの会話で「よし、がんばろう」と切り替えられるところだと思う。また、「みんなやってる」と目に見えて分かるためやる気に繋がる。

【2次試験・3次試験(個人面接のみ)】

2次試験の内容は、模擬授業、口頭試問、英語の実技の3つ。まず模擬授業は、二人の先生に指導をお願いし、週二回模擬授業の練習をしていた。また、試験の情報を得る&友達の授業方法を知るために、他大学の友達とズームで模擬授業をし合い、意見を言い合っていた。方法は、教科書をたくさん読み、問題の教え方を知る。ネットで指導案を毎日のように見ている(数をこなすこと)。模擬授業の試験で大事なことは「なんか教師らしい立ち振る舞いや明るさ、堂々とした態度」だと思う。口頭試問は、教師としての対応や学習指導要領について勉強し、3人の先生に指導をお願いした。毎日練習しているととても疲れる。そんな時は、友達とご飯に行ったり、買い物をしたり自分の好きなことでストレスを発散することが大事である。教採の勉強・練習から一番大事なことは「行動力」だと学んだ。受験自治体の情報を得るために、自分から色んな人に助けを求めた行動力が合格につながったと感じている。

②実際、受験してみて得られた知見や教訓、後輩に伝えたいこと

教採が近づくほど、焦りや緊張で押しつぶされそうになるけど、対処法はコツコツ勉強・練習し続けるしかないと思う。また、本番は自分の予想以上に緊張すると思うが、そんな時はあえて周りを見渡す。みんな緊張していて逆に安心する。そう思えば大丈夫です。安心させてくれるのは自分のやってきたことだけだと思います。頑張ってください！



合格体験記(岐阜県・特別支援学校)

子ども発達学部 心理臨床学科 障害児心理修4年 本多秀行

①受験対策・勉強法について

受験勉強は3年生の夏休み頃から始めた。教員採用試験は勉強する内容も範囲もたくさんあるため、最初は何に手を付けていいのかわからなかった。私の場合、最初に岐阜県の過去問題を解くことにした。勉強をしていない状態で問題を解いたためひどい点数であったが、ひどい点数を取ったことで「このままではまずいな」という気持ちになり、勉強をするモチベーションにつながった。岐阜県は1次試験が7月にあるが、私は3年生の3月に1次試験があるという気持ちで勉強に励んだ。3月に1次試験がある気持ちで勉強をしていたため、3月末には筆記対策をほぼ完璧に終え4月から面接対策に力を入れることができた。筆記の勉強は、CDP講座や東京アカデミーが出版している参考書を使って勉強をした。また、私は岐阜県しか受けるつもりはなかったが、過去問題を解くときは岐阜県だけではなく、愛知、神奈川、静岡、三重等様々な自治体の過去問題を解いて勉強をしていた。


面接対策は前述したように4月から本格的に取り組んだ。私は今まで面接の経験がなかったため、はじめは質問をされると固まって何も言えなかった。そこで、岐阜県だけではなく他の自治体の過去問題もみて質問をピックアップし、その質問に対する私の考えを200字程度でワードにまとめた。質問と質問に対する私の考えを100通り以上ワードに打ち出し、全部暗記したうえで対人での面接練習をした。対人での面接練習では、ともに教員を目指している友人や大学の先生にアポを取りzoomを使用して練習をした。多い時には面接練習だけで1日8時間以上したこともあった。面接練習で意識したことは、姿勢、表情、声の大きさ・早さなどである。話す内容はある程度は大切だと考えるが、私は内容よりも感情をこめて面接官に自分の思いを伝えることを意識して練習した。

②後輩へ伝えておきたいこと

当たり前のことですが、試験が近づいてくるととても緊張します。私自身、試験1か月前には緊張であまり勉強に集中できませんでした。そんな中で私の支えとなっていたのが、周りの友達です。緊張感を共感したり、たまに勉強とは関係のない話をしたりと私は周りの友人にとっても助けられました。受験は団体戦という言葉がありますが、教員採用試験を通してこのことを改めて強く感じました。勉強をして行き詰ったときには決して一人で抱え込まず、周りの友人や先生を頼っていくのが良いと思います。

最後に、私は2度と教員採用試験での緊張感を味わいたくありません。1度味わうことは大切ですが、後輩の皆さんにも何度もあの緊張感を味わってほしくないです。勉強はやった分だけ学力が付くとは限りませんが、やった分だけ自信がつきます。教員採用試験当日、自信をもって臨み、合格を勝ち取れるように一層勉強に励んでほしいと思います。





合格体験記（静岡県・特別支援学校（保健体育））




スポーツ科学部 スポーツ科学科4年 神戸あかり

私は、「実態に合わせてスポーツを工夫することで、身体を動かすことを楽しんでほしい」と思ったことがきっかけで特別支援学校教諭を目指し始めました。でも、教員採用試験を終えた今、理想の教師像はかなり変わりました。もちろん、ルールや用具を工夫して生徒に合わせることで楽しく身体を動かしてほしいという思いは変わりません。しかし、「学校で過ごす時間を一緒に楽しみたい」という思いが今は一番で、「一緒に全力で身体を動かして楽しんだり、同じ空間を楽しむことで生徒が安心できる環境をつくり、伸び伸び過ごしてほしい。その中で、生涯の楽しみになるものを見つけてほしい」と思っています。

この変化は、授業や教員採用試験へ向けての勉強や多くの経験が影響していると思っています。教員採用試験の勉強をしていた1年半を思い返すと多くの人や経験に影響され、助けられ、刺激を受けていたなあと改めて思います。

試験勉強を意識しはじめたのは2年後期です。勉強は12月の合格体験報告会に参加して1月のテストが終わってから、周りに勉強している人がほとんどいない中、友達と2人で勉強を始めました。教職教養は過去問を見て多く出る範囲から順にやっていききました。でも、保健体育と特別支援教育は何をすれば良いのか全く分からなかったです。そんなときに頼ったのは先生でした。一緒に分析してくださり、的確な分析に安心して勉強に取りかかることができたことを覚えています。徐々に周りも勉強をはじめると、効率よく取り組むことに自信が無いので焦りがでてきました。教育実習が試験直前に予定されていたことも焦りの要因の一つだったように感じます。焦って勉強しても何も頭に入ってこなかったのも、そのたびに友達と話して気分転換しました。同じ内容の勉強をしているので、分からないことをすぐ聞けたのも勉強仲間がいる強みだなと感じました。友達と勉強したり図書室で勉強している人たちを見ている間は感じなかったけれど、大学が入校禁止になり家で一人で勉強するようになると、周囲からの刺激のありがたさを強く感じました。今年はずっとこんな状況だったしこれからもどうなるか分からないけれど、リモートで勉強したり、たくさん連絡を取りながら頑張ってください。

はじめに書いた理想像は、神戸大学付属特別支援学校への見学と障害者施設でのアルバイトがきっかけで大きく変わったように感じます。また、特別支援学校での教育実習が教員採用試験後なので、現場を知らないで挑むこととなります。なので、少しでも学校現場を知っておくことと障害者とできるだけ多く関わっておくことで、自分の考えや思いを深めたり、明確にすることができるし、面接の際、実際に教員になった姿を想像しながら受け答えすることができるので、どんな形でもいいから実際に教員になった姿を想像できるような経験をしておくと良いと思います。



合格体験記（奈良県・高等学校福祉科）

社会福祉学部 社会福祉学科 人間福祉専修4年 下田勝義

私は、奈良県高校福祉科の教員採用試験を受け合格することができました。今回の受験はコロナの影響もあり、いつ試験日や試験内容が変更されるかわからず受験当日まで落ち着きませんでした。一次試験は、一般教養として5教科の内容や教職教養が出題されるものと、専門教科に関する試験でした。また、別日に集団面接があり、「学び続ける価値」について討議しました。二次試験は、模擬授業を10分実施した後すぐに個人面接が行われました。試験に向け、私が取り組んできたことを紹介します。

○受験対策・勉強法について

私は、一度社会人を経験してから高校福祉科の先生になることを目的に大学に入学しました。そのため、1年時より教職に関するイベント情報を収集しほぼ全てに出席しました。その中で、2年連続参加した教員採用試験対策講座（教職教養）や、昨年11月の論作文講座を受講し、高校教員経験のある先生の授業を受け、学びを深めつつ講座で学んだ内容を復習することや、試験1週間前から講座で頂いた資料を読み返しました。また、受験する自治体が決定するのが遅かったのですが協同出版から出されている過去問集に取り組みました。また、教員採用試験の情報収集をするために、NSK教採ネットというサイトを3年生の頃に見つけて無料の模試を受けることや、教職の時事情報を閲覧していました。さらに、3年時に開講していたCDPの教採試験対策講座を受講、今年6月にあった面接練習会に参加しました。勉強法は、一般教養が苦手だったので教職教養や専門教科に重点を置き学習をしてきました。

今年はコロナの影響もあり、仲間と集まって勉強することや6月実施予定だった教育実習ができなかったのもモチベーションを保つことが難しかったです。そのため、社会福祉学部の教職メンバーとのこまめな連絡や自分がなぜ教師を目指して大学に入学したかなどを考えることでモチベーションを維持していました。

試験に模擬授業があったのですが、教育実習が後ろ倒しになったことや大学の教室が使えなかったこともあり苦戦しました。そのため、自宅で教壇に立っていることをイメージしながら板書の真似をしながら繰り返し授業の展開を一人で練習しました。ただ、当日は緊張や実際に板書したため時間配分が予定していたよりも多くの時間がかかりやりたいことの半分くらいしかできませんでした。

○伝えたいこと

私は、ギリギリまで受験自治体の選択を悩みました。そのため、試験内容などの情報収集が遅れたので、来年度受験を予定している方は早めの行動を心掛けてください。



2020年度 教員採用試験を振り返って

教職課程センター副センター長 齋藤一晴

コロナ禍の採用試験対策

2019年12月19日に行われた2019年度の採用試験合格者による合格体験報告会では、夢を実現させた先輩たちの姿を目の当たりにした後輩たちのモチベーションは大きく高まった。ほどなく面接練習や共同学習のためのサークルがつけられ始め、その活動に期待しつつ2020年度を迎えることになった。

ところが、新型コロナウイルスの拡大により、新年度早々、教職課程センターどころか、学内すべてが閉鎖され、授業は遠隔というこれまで経験したことがない状況に追い込まれた。学生たちは大学に来れず、仲間たちと面接練習や教採に関わる悩みごとを相談することもままならない状況下で慣れない授業スタイルに対応しながら、さらには、教育実習の縮減が生じる場合もあるなど、苦しい期間が続いた。

自治体によっては、コロナ対策ということで試験科目が変更され、学生たちが当初、準備してきた内容とはまったく異なる試験対策が必要になることもあった。例えば、愛知県の場合、一次試験は筆記試験だけに簡略化され、集団面接は行われなくなった。これは、一次試験において人物評価よりも筆記試験が重視されたことを意味しており、筆記と面接のトータルでの評価が望めなくなったことは、大変残念な変更であった。

採用試験の結果から見えてきたこと

学生たちは、上述したようなかつてない状況下で対策を行うことを余儀なくされた。そうしたなかにあっても採用された学生には、いくつかの共通した特徴がみられる。

- ①採用試験だけでなく、日常の授業への積極的な参加がみられたこと。
- ②遠隔であっても仲間たちとの面接練習を繰り返し行うなど、自主的な取り組みがあったこと。
- ③CDP講座、ステップアップ講座、8月1日に東海キャンパスにおいて対面で行った二次試験直前対策講座などに積極的に参加し、モチベーションの維持に努めたこと。
- ④2年生の後期や、3年生の前期という早い段階から教採対策を始めており、準備にしっかり時間をとっていること。

来年度も、コロナ禍の影響は残ると考えられる。それを念頭に教採対策を行う必要があるだろう。

来年度に向けて

今年度、残念ながら採用されなかった学生たちには、卒業後も夢を追いかけて欲しいと思う。2020年度の合格体験報告会には、卒業後、非常勤講師として働きながら採用試験の準備を続け、今年度、念願かなって採用された卒業生も参加、報告することになっている。

教職課程センターでは、採用試験の結果を問わず、卒業後も含めた教員養成に力を注ぐ必要がある。そのためには、コロナ禍において、学生による自主的な学びの機会をどうつくっていくのかが問われているといえるだろう。



卒業生からのたより

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修 2019年度卒業
愛知県小学校教諭 近藤良彦

私は、2019年度に日本福祉大学を卒業して現在、愛知県公立小学校で働いています。コロナの影響もあり、ただでさえ右も左も分からない1年目なのにも関わらず、学校も通常運営とはいかない中で、バタバタと毎日を過ごしています。しかし、子どもはすごくかわいくて、このような中でもやっつけているのは子どものおかげだと思っています。今回は在校生の方々に少しでも参考にしてもらえたらと思い、教員になるためのメッセージを送ります。これから出てくるアドバイスは、私が実践していたものだけではなく、私が30人以上の愛知県の教員の方々に教えていただいたものもあるので、皆さんが「自分に合っている」と思うものを実践してみてください。

まずは面接です。就職活動をするにあたり避けては通れませんが、教員採用試験で最も重視される項目でもあります。ぶっちゃけ面接の評価がよければ（A判定）筆記があまりできなくても（5～6割のD判定）受かります。逆に筆記がよくても（8割ほど）面接の評価が悪ければ（D判定）落ちてしまいます。1つ目の対策はとにかく経験をたくさん積むことです。初めは友達と一緒にやってみてもいいですが、緊張感があつた方がよりいいです。私は教育実習先の校長先生に依頼し、講師の方々と混じって何回も練習させていただきました。こんなことを言うのもどうかと思いますが、校長先生に依頼をするのも、会ったこともない講師の方々と一緒に面接をするのもすごい嫌だし、恥ずかしいし、面倒だと内心は思っていました。しかし、本番は知らない人達のなかで全員が必死になって面接を受けるので顔見知りの仲間同士だけで練習していたのでは埋もれてしまいます。実際に試験を受けてみて緊張感のある場で練習しておいてよかったなと思いました。2つ目は、面接で話す内容を準備しておくことです。面接で聞かれる内容はほとんど予想できます。私は他の大学の友達に出題傾向が高い質問をまとめた資料を送ってもらい、その質問（30個ほど）に対して自分がどう答えるか、1分弱の台本をノートに書きました。台本をノートに書いておくと、自分の伝えたいことを伝えきれるのでおすすめです。また、面接の練習をしてもらったときにノートも見てもらうことで、「この質問がきたらこう答えようと思っています。」と答える内容を指導してもらいやすいのでよいです。質問に対しての答えは簡潔にした方がよいです。「はい、～です。理由は～だからです。」など30秒から50秒くらいがベストです。1分半以上はNGです。

次に筆記対策です。教養試験や専科の試験は勉強すればするだけ点数は高くなります。方法は自分に合った参考書を選び、何度もやることです。同じカテゴリーのものを何冊もやらず、一般教養、教職教養、専科（小学校全科）の3冊を繰り返しやることをおすすめします。TSUTAYAで買った3冊だけでA判定をとれるのでいろいろな参考書をやる必要はありません。あとは過去問です。参考書と同じように繰り返し何度もやってください。問題を覚えてしまうほどやっても意味があります。

以上が私が在学生の方々へ伝えたいことです。大学生と講師の1番大きな違いは時間です。現役合格を逃してしまうと講師として働きながら試験の準備をすることになります。「時間がある学生のうちに・・・」ということをよく耳にしますので万全の準備をして試験当日を迎えてください。お読みいただき、ありがとうございます。

卒業生からのたより



子ども発達学部 心理臨床学科 障害児心理専修 2016年度卒業
神奈川県特別支援学校教諭 梅田（百生）菜未

神奈川県で教員を始めて4年目になりました。体験談として2つのエピソードを紹介します。

①おしゃべりが上手なA君

1年目は臨時的任用職員として、知的障害の小学部3年生のクラスの担任をしました。いつも元気いっぱいでおしゃべり上手なA君の苦手なことは「初めて」なことでした。やりたい気持ちは強い一方で不器用な部分もあり、できない！と思うと大きな声を出して拒否してしまいます。担任としては、頑張らせたい気持ちもありつつ、できなかったという経験ばかり積み重ねたくはないなと思っていました。図工は初めての活動が多くA君の苦手な科目だったので、パーテーションで囲い、一人で取り組ませてみました。すると周りを気にすることがなくなり静かに取り組めたのです。

保護者の方に協力していただいてA君のつまずきを減らす工夫もしていきました。サイズが小さくなってしまったズボン、リュックなどをゆとりのある大きさに変えていただいたことで、大きな声を出す回数もずいぶん減りました。保護者とともに支援を考えていくことは重要だなあと感じさせられました。

②面倒見の良いBさん

初任者として新しく配属されたのは、知的障害の高等部年1年生のクラスでした。教員の真似をして他の生徒のサポートをしてくれる面倒見の良いBさん。入学当初、うまく気持ちを処理できずに物に当たってしまうことがありました。しかし物に当たってしまったことを反省して、毎回涙をながしてしまいう姿をみて、もどかしい気持ちを抱えていることを感じました。

Bさんのつまずきは、自己肯定感の低さと言葉で処理する力の弱さからくるものでした。イライラする→言葉で上手く表せない→物に当たる→自己嫌悪というようなループの中にいました。そこで私はダメなものはダメ。良いことは思いっきり褒めよう。認めてあげようと思いBさんと関わりました。1学期の終わる2日前、Bさんは何度も衝突してしまった友だちに初めて「ごめんね」と自ら謝ることができたのです。2学期になると、物に当たることはなくなり、落ち込んでいるときに少しずつ思っていることを話してくれるようになりました。「物に当たってはいけない」ことをきちんと分かってセーブができるようになったのです。

③最後に

A君やBさんとの関わりの中にあつたように教員として、子どもたちの変化を感じた瞬間はとても感動します。働いていると子どもたちから学ぶことが多い一方で、心に余裕がなくなりうまくいかないこともあります。そんな私が今も続けられているのは同期のおかげです。余裕がないときこそ周りを頼って、困難なことも乗り越えていきたいです。

最後に、みなさんに「こだわりにこだわらない」という言葉を贈ります。この言葉は、こだわりに対して対抗心をむき出しにしている、改善にはつながらない。肩の力を抜いていこう。という意味です。教員を目指すみなさん、楽しいことはたくさんありますよ。肩の力を抜いて、楽しいことを見つけ、さらに作り出せる教員になってほしいと願っています。

今後の予定

【3年生（1・2年生の参加も可）】

教員採用試験合格体験報告会

2020年12月19日（土）9:20～12:35 オンラインZoom開催

【1年生】

教職課程オリエンテーション

2021年3月26日（金）4・5限 美浜キャンパス・東海キャンパス

教職課程登録期間

2021年 3月下旬を予定

